

## 自然休養林と地元林業労働者の受けとめ方

九州大学農学部 織 田 悠 吾

### 1. 目的

自然休養林制度は昭和43年発足以来全国にその造成がなされている。北九州自然休養林も100万都市北九州市を背後に皿倉山から福智山に至る1,205haが、昭和45年以来開発整備されている。この様な時点において、第一線の維持、管理を担っている地元の林業労働者が、どの様な状況にあり、またその状況の下で、この新しい林業思潮をどの様に受けとめているかを明らかにしたい。

### 2. 結果と考察

対象者は、北九州自然休養林北部に位置する直方管林署管内八幡担当区の田代と、同管内福地担当区の内ヶ磯在住の者とした。

田代では現在員11名で、農地保有面積0.5ha以上が7名、平均年齢48才、35年当時よりの人員の減少率50%、雇用条件は常雇が10名、就労日数はすべて240日以上である。

内ヶ磯では現在員6名、農地保有はなく、平均年齢56才、35年当時よりの減少率75%、雇用条件は日雇いがすべてを占め、就労日数は全員240日以上である。

以上をふまえた上で面接をこころみた。自然休養林に対する興味、関心については次のようになる。内ヶ磯での早急な問題は、日雇いから常雇化という事である。田代においては、常雇いの上での賃金上昇という事が生じてきている。これらの事から、内ヶ磯の場合は雇用条件の整備が身近な問題であり、休養林に対する関心は二次であるように受けとられた。

いずれにせよ、林業労働者の置かれている立場が、休養林を地元の物質的、精神的利益に結びつけようとするか否かの意欲決定の要因になっている。ことに内ヶ磯の場合は、農地からの収入がなく、林業賃労働に依存せざるを得ないため、雇用の安定化への希望は大きいものがある。

つぎに仕事の量や性質の変化については、両地区とも本来の育林伐採の内容に加えて諸雑役が増加している。内容としては、45年度をみると、遊歩道その他に300人/日（八幡）、220/日（福地）等で、つる切り、

除伐労務等のふりかえも行なわれている。特に人員の少ない日雇い形態の内ヶ磯においては、シーズン中には手がまわらぬ程である。

以上の事は、雇用形態の相違からくる内ヶ磯労働者の田代とは異なる不安定な立場を表わしている。また、この事が都市部からの林内来訪者の無秩序な汚染とあいまって、彼らの自然休養林に対するやりきれぬ不満、不安を形づくっている様である。

また一方、彼らは、自然休養林に対する自己の労働の積極的な参画を望んでいる。しかし、この様な意識と労働者が置かれている立場から出てくる現実の問題意識とは、必ずしもかみあわない。

前述の様に、内ヶ磯にとっては、日雇いから常雇い化が切実な問題であり、それに伴う雇用の安定と保障の確立は、彼らにとって急務の問題である。また、田代では、雇用形態の不満はないが、賃金値上げが一致した要求として出てくる。この様に両者が置かれている立場を比較して見る時に、自然休養林に対する意識や関心も異った現われ方をする。つまり内ヶ磯の様な高齢、日雇い層の地区では、主旨は理解しても、何の不安もなしに受け入れるまでには至らぬ様である。

休養林指定に伴う諸雑役の増加は、林業労働者もつ林業技術の適正なる発露の方向を見失わせ、いたづらに地元林業労働者を不安と混乱へ導いている様である。

今後、自然休養林をひかえた都市近郊の国有林地帯においては、林業労働者の流出防止はもとより、地元林業労働者が自然休養林に対して持つ新しい労働意欲をうまく発揮させる事が必要であろう。労働者の置かれている立場は、殊に内ヶ磯では瀬戸際にきているといつてよい。そのためにも、雇用条件の安定化、数少ない都市近郊林業労働者の保護、拡充をもって、林業労働の適正配置をはかる事が望まれる。

長期を要して造成、維持されていく自然休養林地帯においては、森林内容の充実、特に修景施業を含む育林面により高度の技術と安定した労働力の供給が求められる。しかし現実には、休養林を取りまく労働力の供給地域に、空白ないしは高齢化、減少化による空白地帯を招きつつある。

この様な時点において、具体的な対策としては、例えば都市近郊地帯であるという条件を生かして、環境良好な労働の場として、公園管理者的なテクニックと林業労働本来のものと併せた技術教育を、都市部あるいは地元在住の若年労働者に実施するという事も考えられるであろう。

自然休養林という語は、従来の林業労働のもつ低迷さに、一種、明かるい近代的なイメージを与えてい

る。この新しさ、ユニークなものを後継者の育成に用いる事は、自然休養林のもつ別の意味の林業に与える明るい展望であろう。

いずれにせよ地元林業労働者は、自然休養林が都市の利用者のみでなく、地元にとっても魅力のある働き場の場、自らの技術を正しく生かせる場となる事を期待している事を記して結びとする。